

第35回 鹿児島県PTA連合会「小・中・高・特別支援学校PTA広報紙コンクール」審査評

1 総合所見

- (1) 昨年度来、コロナ禍の影響で、学校行事の中止・縮小、校内への立ち入りや会議等の制限がなされたこともあり、広報紙の作成が困難を極めている。その影響で、コンクール応募校が中学校を除き、減少していた。特に、高等学校の応募校は、14校から7校に半減した。そのような中、県内各地、多くの学校から出品されていた。
- (2) 全体的に、テーマ性のある紙面作りをして、PTA活動活性化のための広報紙づくりへの意欲と努力が感じられた。特に、一面に何を持ってくるかということは、大きな視点となる。
- (3) これまでは、多くの学校は、年間3号発行していたが、年間1号から2号発行という学校が増えた。これは、コロナ下において、応募規定を緩和したことの影響もある。
- (4) 小学校では、保護者が知りたい教育情報をテーマにした紙面づくりが増えている。また、写真を大胆に使った紙面も目を引くが、文章で綴られている紙面は読みごたえがあった。その他、イラストを工夫して、マスクや双六の作り方を掲載して、読者が楽しんで読める工夫をしている学校もあった。今回は、小規模校の頑張りが光っていた。
- (5) 中学校も、コロナ禍でありながら、紙面作りに工夫を凝らしていた。写真や文字の大きさなど適切で、読みやすい紙面にしようという意識が見えた。また、時季を得たアンケートを実施し、読み手の興味・関心を引く工夫が見られた。小規模校の応募も多くあったが、手作り感、読みやすさの工夫が見られた。
- (6) 高等学校・特別支援学校は、応募校こそ多くはなかったが、質の高いものが多く、選考に苦慮した。行事の特集の代わりに、日常の様子を綴ったものが多くあり、児童・生徒の普段の様子が見られるものとなっていた。写真撮影の技術も向上し、生き生きとした表情、素敵なアングルのものが多かった。

2 今後の課題(留意してほしいこと)

- (1) 年間テーマ・年間編集計画等を策定し、計画的に取材、編集を行ってほしい。そうすることで、テーマに沿った記事や写真が集まり、内容に厚みのある広報紙となると思う。
- (2) 基本的なことではあるが、文字の大きさや書体、濃淡など、気をつけてほしい。
- (3) カラー印刷の広報紙が当たり前になってきて、見やすいものが増えたが、多色使い、字体がバラバラ過ぎると、統一感がなくなるので、注意してほしい。
- (4) 今後も、他校の優れた広報紙を参考にしたり、広報紙担当者研修会に参加したりして、PTA広報紙の内容の向上とPTA活動の充実を図っていただきたい。